

第44回 北洋研究シンポジウム

水産・海洋 ICT 研究の最前線 -漁業現場における自主管理のための情報通信技術-

共 催：水産海洋学会，北海道大学大学院水産科学研究院，北海道大学北方生物圏フィールド科学センター，稚内水産試験場

後 援：一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構

日 時：2014年2月20日（木） 13：00～17：00

場 所：函館市中央図書館 視聴覚ホール

コンパネーター：宮下和士（北大フィールド科セ）・齊藤誠一（北大院水）・和田雅昭（はこだて未来大）・佐野 稔（稚内水試）

挨拶：和田時夫（水産海洋学会長） 13：00～13：05

趣旨説明：宮下和士（北大フィールド科セ） 13：05～13：10

話題提供：

座長：佐野 稔（稚内水試）

1. 水産・海洋情報通信技術の最前線

① 水産・海洋情報技術開発の今，これから 13：10～13：50

和田雅昭（はこだて未来大）

② 水産・海洋 ICT 製品の漁業現場への導入，活用事例紹介 13：50～14：10

伊藤喜代志（㈱環境シミュレーション研究所）

③ 地球観測衛星データを利用した漁業用海況情報の提供 14：10～14：30

高橋文宏（㈱グリーン&ライフ・イノベーション）

休憩 14：30～14：40

座長：和田雅昭（はこだて未来大）

2. 漁業者による自主管理と水産情報通信技術

④ 水産資源管理の合意形成を妨げる原因の分析 14：40～15：20

田丸 修（水工研）

⑤ 自主資源管理を実現したマナマコ資源管理支援システム 15：20～15：50

佐野 稔（稚内水試）

⑥ マナマコ資源管理支援システムの導入，運用，展開 15：50～16：10

田村 浩（㈱日本事務機）

休憩 16：10～16：20

3. 総合討論 16：20～17：00

座長：宮下和士（北大フィールド科セ）・佐野 稔（稚内水試）・齊藤誠一（北大院水）

開催趣旨：天然資源に頼る水産業の現場は，資源の減少，魚価の低迷，燃油の高騰，産業従事者の減少・高齢化など困難に直面している。そのため，これまでもこれら諸問題を解決するための技術開発，普及活動が数多く行われてきた。ただし，持続的産業が成立しているのは，オホーツク海のホタテガイ漁業など一部の漁業に限られている。水産資源の持続的利用と漁業経営の安定化に向けて，水産業のシステム化と効率化は避けて通れない命題である。水産・海洋に係る産業・研究現場における情報通信技術（ICT）は，上記命題の克服をサポートする強力なツールとして注目され，その導入が進みつつある。そこで本シンポジウムでは，漁業現場における自主管理のための水産情報通信技術について，その研究の最前線や実際の導入事例について紹介する。そのうえで，あらためて水産資源の漁業者による自主管理の合意形成を妨げている問題点を抽出し，情報通信技術の導入により漁業者による自主管理を実現した成功事例を通じて，今後の水産業における情報通信技術の活用の在り方について議論することを目的とする。